



青年海外協力隊 シニアボランティア  
2016年度 2次隊 卓球隊員 西岡 昌彦

今回は2月に巨大サイクロン「ジータ」によって被害を受けた自宅について、トンガ流修復状況の経過と結果、および生活にもたらした影響についてお伝えします。

結局トンガのボランティアの中で、私の家が一番被害が大きく被災前の状況に回復(一部は現在も未回復)するまでに2か月半の期間がかかりました。

## 1、リビングの窓ガラス

飛来物により、リビングの窓ガラス1枚が破損し、割れた部分に段ボールをあててガムテープで仮止めという状況でひたすら修理が始まるのを待ちました。ようやく修理が行われたのは3/14、サイクロンが去って1か月後でした。その日、業者が窓枠ごと外して持ち帰ったので修理に数日かかるものと思っていましたが当日の午後に修理が済みホッとしました。

## 2、雨水タンク

自宅が一番被害が大きかったのは雨水タンクです。右の画像は入居直後に撮影したものでタンクの後方に写っているマンゴーの大木が強風により雨水タンクに向かって倒壊。



被災直後の雨水タンク 2018/2/13 撮影

タンクの素材は小型船舶にも用いられる丈夫なものと認識していましたがフタは倒木の衝撃により全体が内側にへこみ枝の形に沿うように穴が開いていました。そのままでは使えないので一旦業者が回収。翌日大家さんが連れてきた若者一人がタンクの内側に入り、破損部分から入り込んだ木の葉や泥などを清掃、次に大工さんが登場してタンク内側にゴミや虫が入らないよう、網戸の素材とブルーシートでタンク上部を覆い、周囲を針金で仮止め。



仮補修状態の雨水タンク、左側には一部マンゴーの枝が残ったまま。

サイクロン通過後は左の画像のような状態になり、修理よりも枝の撤去にかなりの時間がかかりました。ようやく全ての枝を取り除き、フタの状況を確認できたのはサイクロンが去って3週間以上経った3/8でした。



給湯器(左壁面)と被災前の雨水タンク

2017/3/19 撮影



破損した雨水タンクのフタ

2018/3/8 撮影

しばらくこのままの状態が続きました。3/22にようやくタンクのフタが到着。新品かと思ったら内側にへこんだものを外側に戻して破損した部分を接着剤で補修し、以前使っていたものを持ってきたので驚きました。タンクのフタを所定の位置に戻し、母屋の屋根から雨水を集めるパイプを接続して作業終了。雨水タンク修理にサイクロン通過から40日かかりました。

作業の妨げになるのでそれまで雨水は貯めませんでした。フタが戻ったのでこれで安心と思い排水バルブを閉じて雨水を貯め始めました。直後に(運よく?)大雨が降ったため様子を見に行ったら何とタンクの下から3分の1程度のところに亀裂が2箇所あり、そこから勢いよく雨水が噴き出しており愕然としました。



👉 雨水タンクに生じていた亀裂



👉 超強力テープで補修

すでにタンクのフタは設置済みなので内部から補修は無理と判断。困って

事務所に相談したところトンガ人スタッフの方がホームセンターから日本でも見たことのない超強力テープを調達し、補修してくれました。

### 3、お湯(給湯器)

雨水タンクの機能は回復しましたが、シャワーと洗面所でお湯を使うのに 雨水タンク ⇒ ポンプ ⇒ 給湯器 ⇒ シャワーへと配管がつながっており、その間のどこかに異物が混入してお湯が使えない状態が続いていました。4/4に親方と職人ペアの配管工が来宅。この二人は大変手際よく、最上流の雨水タンクから要所ごとにつなぎ目を外して次々と配管内の異物(主に泥と木の葉)を排出。給湯器手前のつなぎ目を外して通水した際大量の木の葉が噴出して驚きました。そして配管を戻し、給湯器に通水したところ、ここから勢いが激減して給湯器内に異物が混入していることが判明。給湯器はかなり古いタイプでしたので交換とポンプの手前にフィルター設置をするよう大家さんに連絡すると言ってこの日は帰って行きました。



👉 新しい給湯器



👉 新たに設置されたフィルター

待つこと2週間以上、4/20雨の中ついに給湯器交換とフィルター設置の作業が開始され午前中

いっぱいかかって終了。それまで水シャワーで我慢したので通水確認でお湯が出た時は感激しました。以前はシャワー使用時に温度を上げると必要以上に熱く、下げるとすぐ冷水になりどちらになってもその都度飛び上がっており温度調整が大変難しかったのですが、今回は設定自体を適温にしてくれたので使い心地がよくなりました。

トンガはこれからどんどん寒くなるためお湯の件が一番気になっていましたが、これで一件落着いて大変気が楽になりました。

サイクロン通過後、ここまでくるのに約2か月半。トンガで生活するにはいかに忍耐力が必要か多少なりともご理解いただければ幸いです。

### 4、物干し

窓ガラス、雨水タンク、給湯器と順調に修理が進んできましたが、まだ手付かずのものもあります。

物干しは日本と異なり、骨だけの傘の柄の部分の部分を地面に突き立てたような形状で、骨と骨の間に針金を張ってそこに洗濯物を干す仕組みになっています。

日本にはない形状のため、いつかトンガレポートで紹介するつもりで撮った画像(右)があります。



Before 👉 トンガ式物干し 2017/10/24 撮影

これは雨水タンクの隣に設置されています。倒木はタンクを覆いつくした後、物干しにも直撃して



After 📷 トンガ式物干し 2018/5/12 撮影

無残にも左の画像のような姿になってしまいました。その後、現在もそのまま「放置」されており、大家さんも修理する気がないようですし、私も残り任期が5か月、毛布などの大物を洗濯しなければ済みますし、お湯が使えることの方が大切なので、この修理はあきらめています。

なおトンガ式物干しを紹介するにあたり、なぜこういった形状になったか、自分なりに想像した意見がありますのでこの機会にお伝えします。

- ① トンガでは広い敷地内の中央に平屋建ての母屋があり周囲は庭になっていることが一般的で、敷地内に余裕があることが理由の一つになっていると思います。もし日本で敷地内に同じ広さの余裕があったら、もう一部屋余分に建築するか別の用途に使用するのはないでしょうか。
- ② トンガは家族構成員数が多いので一度で大量の洗濯物が出ます。それを効率よく干すためにこのような形状の物干しが発達したのではないかと思います。なおこの物干しは柄の部分を中心に回転しますので、洗濯物を干す人はその場を動くことなく物干しを回転させればよいので機能的で大量の洗濯物を干すのにも適していると思います。

もちろんすべての家庭にこの形式の物干しがあるわけではありません。敷地内の庭木と庭木の間にはロープを張って洗濯物を干してある光景もよく目にします。

## 5、野菜不足

サイクロン通過後に起きた生活への影響で一番深刻だったのは野菜不足です。予想していましたが品薄・品質低下・価格高騰の3条件が重なり、しばらくは市場にも商品が並んでいませんでした。

3月になってからようやく少しずつ市場にも商品が並ぶようになりましたが、近くで見ると購入気力が失せるような品質と驚くような値段で野菜は口にできませんでした。唯一口にできた生野菜は輸入品の玉ねぎだけでした。そのためしばらくは、いただきものの青汁でしのいでいました。

4月末になり、品質と価格が落ち着いてきたためレタスとキャベツを購入し、玉ねぎと合わせてようやく簡単な野菜サラダを口にできました。

サイクロンにより住居の被害だけでなく食べ物についても影響があったこの3か月。厳しい状況でしたが幸いにも何とか乗り切ることができました。最後に少しスペースがありますので甚大な被害をもたらしたマンゴーの大木について Before , After を紹介します。(バシリカ教会側から撮影)



Before 📷 2017/6/1 撮影



After 📷 2018/3/14 撮影